

開催地名：埼玉県三郷市	
開催日時	令和4年9月30日（金） 10：40 ～ 12：20
開催場所	三郷市立高州東小学校
語り部	武藏野 美和 （岩手県陸前高田市）
参加者	4・5・6年児童 123名
開催経緯	小学生にとって、東日本大震災は高学年の児童が生まれたばかりの出来事であり、体験はもとより実際に見聞きした記憶もほとんど無い状況である。ここ最近地震が頻発している中で、関東地方でも将来的に大きな地震が予測されている。今回は小学生への伝承とともに、災害現場でのお話を聞くことで、非常時における自分自身の行動を見直す機会としたい。また、災害時の対応だけでなく、災害現場や復興に向かう中での、人と人とのつながりについても考えさせたい。
内容	<p>（1）震災発生時の陸前高田市について</p> <p>私が住んでいるのは、岩手県陸前高田市という、人口約2万4,000人ほどの小さな市である。岩手県の中では比較的温暖な地域で、小さな街であるが、きれいな風景の場所がたくさんある。海岸沿いに面した部分が少なく、市の中心に大きな川が通っている。かつて川から中州が生まれ、そうして出来た平野に人が住み始めたことで栄えた歴史があり、震災時は川の近くに市役所や図書館、学校といった主要な建物や住宅が集中していた。そして、残念ながら災害防止に繋がる対策は講じられていなかった。</p> <p>（2）東日本大震災時の状況</p> <p>2011年3月11日の午後、マグニチュード9.0の大きな地震が発生した。陸前高田市の震度は6弱であった。地震そのものより、しばらくしてからやってきた津波による被害が大きかった。津波の恐ろしさは、いろいろなものを破壊しながら、水が塊で襲ってくるところだ。地震発生から40分ほど経った頃、気仙川を火事のような煙と砂埃を上げながら津波が遡り、市役所や消防署などの公共施設は全壊した。線路の橋げたが飴のように捻じ曲げられ、2キロ先まで流されたほどの威力だった。</p> <p>川の近くに建物が集中していたことから、津波を予測し真っ先に高台や建物の屋上へ逃げた者は難を逃れたが、多くの市民が地震の揺れで倒れたり落ちたりしたものを片づけている最中に津波に遭遇し、巻き込まれて犠牲になった。子どもたちは学校で避難して無事でも、家にいた家族が津波に巻き込まれてしまったケースも多く、そのため震災孤児も発生した。また、亡くなった人だけでなく、11年半が経過した今でも、202人の人たちが行方不明となっている。</p> <p>この経験を通して、私は1人ひとりが「災害が起きたらどう動くか」ということを常に考える意識が必要だと強く感じた。住んでいる場所や、置かれている状況を見て、どう避難するのが安全なのか、一人一人自分で考えることが大切だと思う。</p> <p>（3）防災意識を高めるためには</p>

自分の命を奪ってしまうもの、そのすべてが災害である。交通事故も、新型コロナウイルスも、地震や洪水なども、すべてが含まれる。そして、これらの災害を防ぐことが「防災」だ。交通事故や新型コロナウイルス感染については、工夫することで未然に防ぐことができるが、地震や洪水などの自然災害については、いつ起こるかわからないうえ、発生を止められない。それでも、自分の命は自分で守ることが鉄則なので、自分の住む地域の災害リスクをハザードマップなどで知ることは必要であるし、以前の津波や洪水の被害について知ることも大切なことだ。

近年は地震や台風などの自然災害が増えてきていることから、非常時持ち出し袋を準備するなどして、1次防災や2次防災の備えをしている人は多いかと思うが、0次防災への備えも重要だ。0次防災への意識は、緊急事態での安全と衛生を確保するために必要な、言わば生きるための基礎となりうる。また災害時だけでなく、電車やエレベーターのトラブルで長時間閉じ込められてしまうような場合にもとても心強い。みなさんが毎日マイボトルを持ち歩くことも0次防災の一つと言える。日頃から「万が一」を考え、自分の命を守るための「備え」を意識してほしい。

また、避難と避難所へ行くことは同じではない。身の安全が確保できるのであれば、とどまることも重要であるし、ストレスが大きい場所にあえて行く必要はないと言える。家が安全であれば家で生活してもらって全く問題ない。究極の防災は、逃げなくても良いところに住むことだ。家には3日から7日程度食べつなげる食材をストックしていただきたい。また、大切なものは人それぞれであることから、自分にとって必要なものについては、自分で備える必要がある。



開催地より

経験者による具体的なお話を聞くことで、児童たちは災害のイメージをつかむことができたと思う。今日のお話しを受けて、学校としては「避難訓練の内容精査（水害時など）」、「日常からの防災教育への取り組み」、「学校の避難所としての体制強化」に取り組んでいきたいと思う。